

| | | | |
|---------|----------|----------|------------------------|
| 疾病論Ⅳ | 2年・前期 | 1単位 | 教授 林 泰秀 非常勤講師 宇津木利雄 |
| 科目カテゴリー | 看護の対象の理解 | 科目ナンバリング | 32210372 |

1. 授業のねらい・概要

疾病論Ⅳでは、小児、周産期、婦人の疾病の症状・所見とその診断、治療、予防や各種検査についてその概要を理解する。

2. 学修の到達目標

1. 小児、周産期、婦人の疾病の症状、検査、病態生理を把握・理解する。
2. 小児、周産期、婦人の疾病の治療と予防を把握・理解する。
3. 小児、周産期、婦人の疾病の適切・的確な看護を行えるようにする。
4. 関連する国家試験問題等を適宜出題し、そのレベルの内容まで理解の深化に努める。

3. 授業の進め方

事前に通知したテキストの範囲の内容を、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題等を出題し回答を出席カードに記載してもらい提出させる。テキストの内容に沿った講義形式を基本とするが、随時、新聞・雑誌の記事から具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

4. 授業計画

| | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1. 小児の疾病Ⅰ 先天異常 (林泰秀) | 9. 周産期医療Ⅰ 妊娠 (宇津木利雄) |
| 2. 小児の疾病Ⅱ 新生児の疾病 (林) | 10. 周産期医療Ⅱ 分娩 (宇津木) |
| 3. 小児の疾病Ⅲ 呼吸器・循環器の疾病 (林) | 11. 周産期医療Ⅲ 産褥 (宇津木) |
| 4. 小児の疾病Ⅳ 代謝・内分泌の疾病 (林) | 12. 周産期医療Ⅳ 妊娠・分娩・産褥の異常 (宇津木) |
| 5. 小児の疾病Ⅴ 消化器・腎の疾病 (林) | 13. 周産期医療Ⅴ 新生児の生理と異常 (宇津木) |
| 6. 小児の疾病Ⅵ アレルギー、感染症 (林) | 14. 婦人の疾患Ⅰ (宇津木) |
| 7. 小児の疾病Ⅶ 悪性新生物、血液の疾病 (林) | 15. 婦人の疾患Ⅱ (宇津木) |
| 8. 小児の疾病Ⅷ 神経の疾病、難病 (林) | |

5. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢 (10%)、授業ごとに出題した国家試験関連問題 (10%) および定期試験の結果 (80%) によって評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学Ⅱ 小児臨床看護学各論 第13版 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学Ⅱ 母性看護学各論 第13版 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学Ⅸ 女性生殖器 第13版 医学書院

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布プリントを使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに質問し回答してもらう。なお、これらの準備学修には90分以上が必要である。

8. 受講上の留意事項

欠席回数が全講義回数の3分の1 (6回) 以上となった場合には受験資格を失う。
 遅刻、欠席ならびに授業中の私語、許可の無い教室の出入り、授業に関係ない言動は慎むこと。
 本科目の履修は、人体構造学Ⅰ・Ⅱ、人体機能学Ⅰ・Ⅱの単位取得者に限定する。
 疑問や不明な点については、遠慮なく質問してもらいたい。

9. 課題に対するフィードバックの方法

授業の前に前回の授業の最後に出題した問題を質問し回答してもらい、質疑応答をしながら詳細に説明し理解を深めてもらう。試験実施後答案を採点后返却し解答を掲示する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。